

編入と奨学金で費用を抑え、

夢に描いたカリフォルニアの大学を卒業

留学先： California State University, Chico (アメリカ)
公立高等学校卒業 C.I.さん

2014年3月 高校卒業

2014年8月 Diablo Valley College 入学

2017年12月 同校卒業。日本に一時帰国

2018年8月 California State University, Chico に編入
(Communication Studies 専攻)

2020年5月 同校卒業。卒業後、専攻分野に関連する仕事に1年間まで就ける制度を利用して、翌月よりアメリカのアプリ運営会社でインターン勤務

2021年6月 勤務終了。翌月日本へ帰国



海外の大学に留学しようと思ったきっかけは？

高校1年のときにオーストラリアに行った経験からです。たった2週間の滞在でしたが、生活様式や食文化の違いに衝撃を受け、いつか長期で海外生活をしてみたいと思いました。また、その後に家族と海外旅行をした際、英語を使って生き生きと働く空港のグランドスタッフに憧れたのも、海外進学を決意する後押しとなりました。

最初に2年制大学を選んだ理由は？

留学準備をするにあたって、留学エージェントに費用を極力抑えて留学したいと相談しました。そこで提案されたのが、まず2年制大学に進学して、そこから4年制大学に編入する方法でした。当時の私は編入などというシステムは知らなかったし、それで留学費用が抑えられるなんて、全く知りませんでした。志望校のDiablo Valley Collegeは、いくつか紹介いただいた中で、西海岸の温暖な気候と、カリフォルニア大学など名門校への編入実績が多いことに魅力を感じて選びました。

英語で苦労はありましたか？

高校3年の春から英語塾に通い、IELTS4.5を取得しました。比較的すんなり目標スコアに

達し、それなりに自信をもって現地に渡った私でしたが、留学はまさに別次元でした。当然ですが授業は留学生だけに向けたものではありません。ネイティブスピーカーたちの会話についていけず、言いたいことを英語で言い表せないのほとにかくストレスでした。

日々の課題はもちろん、英語ニュースを書き写してフレーズを覚えたり、聞き取りの練習をしたり、またその日言えなかった言葉や表現を調べて、次に友達に会ったときに伝えるようにしたりするなど、地道な努力を積み重ねました。でも、英語でためらいなく話せるようになるには1年以上かかりましたね。苦労はしましたが、2年制大学は少人数クラスが多くコミュニケーションをとりやすいので、いきなり4年制大学に入学するより自分には合っていたと思います。

編入に向けて行ったことは？

編入に向けて学生がすべきことはただひとつ、いい成績を修めることです。成績が良いほど編入先の選択肢が広がります。

学費負担軽減のために在学中に行ったことは？

親に経済的な負担をなるべくかけないように、編入先に California State University, Chico を選びました。留学生も応募できる給付型の奨学金制度をもつ大学が少ない中、この大学は州立大学なのにさまざまなオプションがあったのが魅力です。私は編入後、猛勉強をして、授業料が全額免除される奨学金の条件である、学年トップ 10 以内の成績をキープし続けました。またボランティア活動に熱心に取り組んだり、クラブ活動に参加したりしました。このおかげで、在学した1年半のうち、2学期間の授業料を全額免除され、結果として約 100 万円の負担を減らすことができたのです。

印象的な授業は？

異文化コミュニケーションを学ぶ「Intercultural Communication (異文化間コミュニケーション)」の授業では、異文化間の問題解決をケーススタディ形式で学びます。「もし多国籍の会社でこんな問題が起こったらどうする？」といったテーマで、学生同士が活発にディスカッションを展開しました。ほかにも古代ギリシャ時代からの影響を受けた「Rhetoric (修辞学)」なども興味深かったです。

これから海外の大学進学を検討する高校生へメッセージ

新型コロナウイルスの流行は留学に大きな影響を及ぼしましたが、アメリカの大学では、対面授業がほぼ問題なく行われるようになりました。オンライン留学も、日本にいながら海

外大学の授業が受けられるという点で有意義ですが、やはり現地でリアルなコミュニケーションをとる体験は特別なものです。誰かが手を差し伸べてくれるのを待つのではなく、自分から積極的に行動して、ぜひ現地に飛び込んでみてください。